

2009年12月25日

辺野古・違法アセス訴訟第二回意見陳述

山内 徳信

私は、沖縄出身の参議院議員山内徳信であります。

第二次訴訟団の一人として意見の陳述を行います。

米軍普天間飛行場の代替施設建設に伴う環境影響評価（アセスメント）手続で、事業者沖縄防衛局による「方法書」及び「準備書」を私は関心をもって検討しました。当然記載されていない事項が「欠落又は隠ぺい、回避されている」と思われる点が多々ありました。多くの県民、国民更には沖縄県の環境影響評価審議会をはじめ県当局からも多くの指摘事項があったことはご承知の通りであります。

私は以下3つの事項について申し上げます。

1番目はオスプレイについてです。2008年4月22日の参議院外交防衛委員会で私は「MV22オスプレイ」と「ジュゴン」「海砂」等の問題に関し、関係者を厳しく追及致しました。

外務大臣、在日米軍関係者からは、オスプレイの配備が度々言及されております。

2006年6月、ジョセフ・ウエーバ四軍調整官は、オスプレイを新基地で運用することを明言いたしました。私が入手したアメリカ側の配備計画にもあります。石破防衛大臣も、参議院外交防衛委員会で「四軍調整官の発言」を知っていると答弁いたしました。

外務大臣も、私の質問に次のとおり答弁致しました。

「現在、米海兵隊が全世界に保有しているCH46及びCH53ヘリコプターが更新されているという一般的な予定があるということとは事実だと思えます。こういう文脈において将来オスプレイが沖

縄に配備される可能性がないことはないということだと思えます」と高村外務大臣もオスプレイの配備を認めました。

私は、この法廷で「ジョセフ・ウエーバ四軍調整官」と日本政府の防衛大臣と外務大臣のオスプレイ配備についての認識を申し上げました。

裁判官は、日米両政府の責任者のオスプレイ配備についての認識をしっかりと受け止めていただきたいと思います。ところが、防衛、外務の官僚達は、オスプレイ配備の件が、沖縄県民、名護市民、宜野座村民、辺野古地域の人々に知れわたると県民の大きな反対と抵抗にあい、辺野古新基地建設計画が不可能になることを彼らは知り尽くしております。

防衛省の官僚が、在日米軍関係者とオスプレイ配備のことを表に出さないようにと口裏合わせをしているのです。いわゆる「オスプレイ密約」と言われるものでしょう。

オスプレイの事故多発の問題、危険性の問題、爆音被害が当然予測されるのです。アセスの方法書及び準備書に配備予定のオスプレイのことが全く記載されていないことは、国民だまし、県民だまし、欠陥アセス、違法アセスと言わざるを得ません。

したがって、アセスやり直しを強く求めるものであります。

2番目にジュゴンの件について申し上げます。2009年7月2日、7日、9日の3回にわたって外交防衛委員会で「ジュゴンの問題」について質疑を深め事実関係を質して参りました。その結果、判明したことの概要を申し上げます。

アセスの準備書75頁のN0.9の事業者の見解によると、「ジュゴンの生息は辺野古沖では平成11年度まで、宜野座から金武湾では平成16年度まで確認されましたが、その後は確認されていません」と記載されています。しかし、実際は平成17年3月7日、辺野古沖を7時間11分もジュゴンが回遊していたのです。

政府参考人（防衛省担当局長）は、7月7日私の質問に答えて

「16 - 9のジュゴンは宜野座沖で発見された後、辺野古沖をゆっくりと北上し、長島、平島辺りでUターンをして南下していった。所要時間7時間と11分です」と環境省の報告書にあるとおり防衛省もついにその事実関係を認めました。

公文書である準備書の中で防衛省は、事実関係を記載せず、事実と違う説明をしております。

防衛省は基地を作るためには、天然記念物として保護すべきジュゴンの生息も、ジュゴンの存在をも意図的に準備書の図表から削除しております。これは正に隠ぺいであり、改ざんであります。

このような行為は国民、県民をはじめ沖縄県環境影響評価審議会をもあざむく行為であり許せるものではありません。

私は、委員会の中で、刑法でいう「公文書偽造」「虚偽公文書作成」「虚偽公文書行使」の規定に抵触する可能性のあることを指摘し、準備書の撤回を要求してまいりました。この法廷でも、準備書の撤回とアセスのやり直しを求めます。

3番目に申し上げたいことは、世界自然保護基金(WWF)ジャパンは11月24日、大浦湾沿岸で実施した採集調査の結果を発表しました。それによると新種のエビ・カニ類の生息が多数確認されております。新種が36種国内初確認も25種に及んでおり、辺野古海域、大浦湾一帯が亜熱帯の豊かな自然の宝庫であり生物多様性の存在を証明しております。沖縄県としても保全すべき第1級のこの海域を守る責任があります。

このような豊かな自然を破壊し新しい基地を作るという発想は文明でも文化でもありません。地球環境を守るといのは今や人類共通の使命であります。

日米両政府の「知性と理性」を失った辺野古新基地建設という将来に禍根を残す自然環境破壊への動きに歯止めをかけうる司法の賢明にして大英断をお願い申し上げ、私の意見陳述を終わります。